

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0873900716
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館こまち
所在地 (電話番号)	茨城県土浦市藤沢894-1 (電話)029-830-6000

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年7月15日

【情報提供票より】(平成20年2月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 24 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円	
敷金	有(円)	有	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.8 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りが見晴らしが良く、ぐるりと山々が広がる環境の良い場所にある。近隣の学校の様子が見えたり、春には桜が眺めることが出来るなど、季節の移り変わりが非常に感じられる。ホーム内はとても明るく、職員は元気がよく、活気があり管理者と職員間のコミュニケーションもよいと感じられた。挨拶という基本を忘れずに、日々利用者のペースに合わせた生活を心がけ、実践している。一人ひとりの利用者の得意なことをうまく生活の中に組み込みながら、役割が自然に行えるよう工夫している。今後も利用者・家族と共に地域に根ざした取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画について、再度話し合いこれまでの計画作成を見直し、館内で介護計画の勉強会を開催するなどの取り組みを改善策とし、取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全体で考え作成にあたった。職員からの意見が自己評価に取り入れられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議での内容を職員と一緒に検討し、ケアに活かすよう努力している。実際にホーム内を見てもらうなどの機会を設けている。今後は防災について議題にし、地域との連携に力を入れていく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情に関してはきちんと口頭や書面にて説明され、対応方法が明らかにされている。これまで、大きなトラブルに至ることはないが、今後も家族の意見や要望など活かしながらホーム運営、ケアに反映できるように、取り組むことを念頭に置いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区長や民生委員の方から情報を貰えるような交流・関係作りに積極的に取り組んでいる。町内会にも入会をすることでより一層地域活動に貢献しながら共に連携が図られるよう考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を地域に向けて説明し、理解してもらっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員には新人マニュアルを基に説明、指導をしている。特に読み合わせなどはしていないが、時折職員間で確認しあったり、ミーティングの中でも話し合いをして振り返りを行うなど共有に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には今後入る予定となっている。地域の体育祭への参加や近隣の中学校との交流がある。地区長や民生委員のかたの協力を得ながら情報を貰い、交流に努めている。		町内会に入ることにより、更に円滑に地域との交流が深められると考えられる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はミーティングなどで職員に外部評価の説明・意義を伝え、職員からの意見を取り入れながら全体で自己評価の作成にあたっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催しており、ホームでの行事報告、現場を実際に見てもらおうなど行っている。会議を通してホームを知ってもらうためにも認知症について議題にあげるなどし、運営推進会議がサービスに活かせるように取り組んでいる。		

茨城県 グループホームいっしん館こまち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談員の定期的な訪問を行ってもらったり、生活保護受給者に関する相談などで、市担当者話す機会が多い。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月一回行事報告や新聞、利用者の様子などを郵送している。その時に応じて電話連絡やFAXなどで連絡をすることもある。金銭に関しても、請求書と一緒にレシートを添付し、立替分の明細を明確にしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置をし、説明をしているが、できるだけ直接面会時に話してもらえるように職員は積極的に家族とのコミュニケーションをとっている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動時や新人職員入職の際は、利用者には挨拶、説明をして行っている。既存の職員がフォローにあたり、ダメージのないように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では講師を招いての社内研修の実施が行われている。当ホームでは利用者一人ひとりの状態により、必要に応じて勉強会を開催している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡会に所属しており、管理者同士の情報交換の場として活かしている。利用者が以前いた施設に訪問することもある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めに一度面接をおこない、希望に応じて体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から様々なことを教えて貰ったり、出来ないことは手伝ったりと共に生活をしているという考えで関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から、思いや希望を汲み取っている。それらを職員間で情報を共有し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には利用者や家族の意見を取り入れながら、ケアに反映できるように作成に当たっている。医師や看護師との連携も図りながら行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しや変化が生じたときの見直しなどができている。家族に相談を行い、新たに作成をしている。		書類の整理、わかり易い記載の仕方家族に更に説明がしやすいと考えられる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の身体状況や家族の要望により、法人として対応可能であることを説明されている。スムーズに対応できるよう体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は協力医療機関に受診をしているが家族に確認・説明をしたうえでやっている。ただし、もともとのかかりつけ医に受診されている方もおり、希望の医療機関には受診が可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては入居時の確認している。利用者の様子を見ながら、随時、医師との連携をとり、家族の意向を確認し最善の方法を相談していく。ホームの方針についての同意書を貰っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーに対しての対応には配慮している。個人情報に関する記録などについては確保されているが、張り出している写真などについては口頭でのみの了解になっている。	○	写真や掲示物、便りなどに関する了解については口頭のみではなく、書面での取り交わしをとる必要性を考えていくことが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に職員は考慮しており、一人ひとりの希望に沿っての生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、職員と一緒に食事など、楽しみに繋がるよう支援されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく利用者の希望にあわせた入浴の支援となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの情報について職員全体で共有を図りながら、利用者にあった楽しみごと、役割作りに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、散歩や買い物などの外出を積極的に行っている。遠出することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしておらず、夜間のみの施錠となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が実施され、消防通報に関するマニュアルも用意されているが、災害という広い意味での認識や対応についてやや意識が低いと思われたため判断した。	○	今後、対応策を考慮していく上で職員の意識向上と地域への働きかけが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示により、水分チェックを実施したり、家族と相談しながら行っている。栄養バランスに関して、法人内の他館の職員で栄養士免許保持者からの助言も貰いながら行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の得意な裁縫などを活かしながら、それらを装飾等にうまく使用したり、温かみのある共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はそれぞれの使い慣れたものが持ち込まれており、一人ひとりくつろげる居室となっている。		